

こことからだのウェルビーイング研究部会

# ウェルビーイングを 生み出す ワークプレイス

こことからだのウェルビーイング研究部会  
部会長

**高原 良** たかはら りょう

株式会社イトーキ  
商品開発本部  
ソリューション開発部



働く人が幸福で健康的に働ける職場環境づくりは、社会的に注目され、取り組みは着実に進んでいるが、その普及に向けた障害がまったく無いわけではない。当部会は、特にワークプレイス領域においては2つの課題が存在すると考えている。1つは、ウェルビーイングを生み出すためのファシリティ投資に対して、いまだ意欲的ではない経営者がいるということ。もう1つは、現場のファシリティマネジャーはそういった知識や方法論を身につけている人ばかりではなく、アクションの仕方についてサポートが不足している点である。

これらの課題を解決するために、当部会では「ウェルビーイングを生み出すワークプレイスの調査」と題して、ウェルビーイングに働く人、企業へのヒアリング調査（図表）を2019年より開始しており、本フォーラムでは第1報として「人」への調査事例について報告を行った。

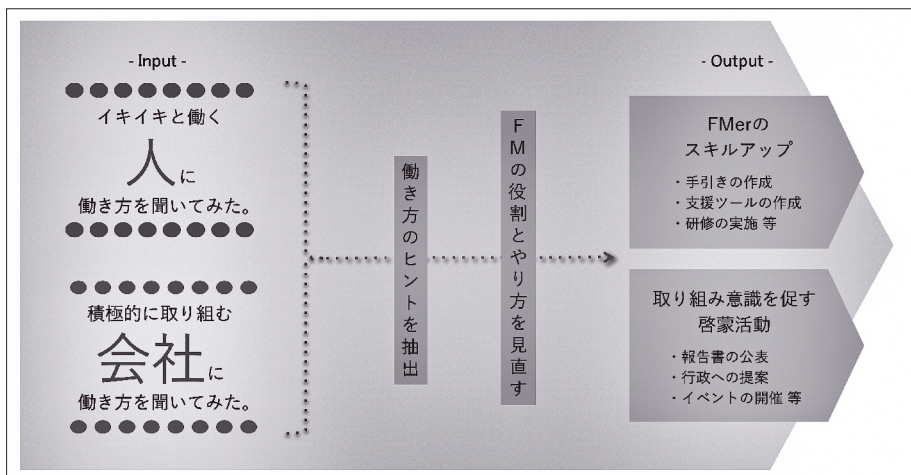
本調査の大きな特徴は、調査の粒度を「人」に設定している点である。これは、ウェルビーイングという言葉は抽象的でその状態を具体的にイメージしづらいため、個々の感情や日常体験の文脈でそれを語ってもらい蓄積することでウェルビーイングという状態をより具体性をもって伝えていけると考えたからである。また、ウェルビーイングの感じ方や達成方法は、個々の人生観やキャラクターなど、さまざまな要因によって変化することが予想さ

れ、そういった多様性への対応も考慮すべきと考えたためである。

調査手法は対面式のヒアリングとした。冒頭に「人生チャート」と呼んでいる、縦軸にウェルビーイングの度合い、横軸に年齢を設定した図表に自身のウェルビーイングの変遷を記入してもらい、変化点となるポイントでのライフイベントや周辺ファシリティ要素について質問する方法を採用した。

フォーラムでは、ヒアリング対象者の内田洋行健康保険組合の中家良夫氏、パーソナルトレーナーの久大保玲生氏にもご登壇いただき、自身の人生チャートやウェルビーイングだと感じる場や環境などについて紹介していただいた。自己の目標を定めセルフマネジメントに努める意識や働きがいを生み出す同僚との絆、仕事の土台となる身体的なウェルビーイングの重要性など、ウェルビーイングな状態で働くために大切な要素が講演内容には多く含まれていた。それらを、いかにファシリティマネジメントを活用して実現していくのか、今後のファシリティマネジメントのあり方を考え直させられる時間となった。

本部会では同様の調査を引き続き実施し、これからのファシリティの要件、そしてそれを構築しウェルビーイングな働き方を実現するためのマネジメント手法について体系化を進めていく予定である。◀



図表「ウェルビーイングを生み出すワークプレイスの調査」全体概要